

第2回福島市花と緑の基本計画策定検討委員会 会議録

1 日 時 令和7年9月29日(月) 13:30~15:30

2 場 所 福島市市民センター 303会議室

3 出席者 委員12名

小林 敬一	委員長	市岡 綾子	副委員長		
アサノコウタ	委員	中野 義久	委員	鈴木 深雪	委員
金子 真樹	委員	山崎 樹里	委員	羽田ミチ子	委員
田崎 由子	委員	細田 真矢	委員	二階堂義樹	委員
渡辺 駿	委員				

4 欠席者 委員1名

齋藤 信也 委員

5 内 容

(1) 開会

(2) 委員長あいさつ

(3) 議事

①市民アンケート調査の結果について

②緑被率について

③福島市花と緑の基本計画骨子(案)について

(4) 今後のスケジュールについて

(5) 閉会

6 会議詳細

(1) 開会

(2) 委員長挨拶 小林敬一

本日、計画について議論するが、計画というのはそもそも科学的、認識論的な合理性という意味もあり、実践的な合理性も必要である。事務局からの様々な資料とデータを出していただき、出揃ったところであり、これを理解して次回の政策論に向けて、我々議会の認識を一つずつしっかりとしたものにしていくことが課題である。もし不明なところがあれば、遠慮なくご質問いただき、忌憚のないご意見をいただきたい。

(3) 議 事

【議事①】

委員長

議題①の市民アンケート調査の結果について事務局より説明をお願いします。

事務局

計画の改定に向け、LINEを活用したアンケート調査を実施し、市内における花と緑の現況に関する市民の満足度や取組状況などについて意向調査を実施した。調査期間は、令和7年6月18日(水)から令和7月2日(水)まで、対象者数は54,846人で回答者数は1,807人であり、回答率は3.29%である。

〈資料1の内容について説明〉

委員長

事務局の方から資料1について説明があったが、委員の皆様のご意見を頂戴したい。

委 員

福島市は、平均で見ると十分な緑や花があるが、駅前で活動している際に駅前通りや中心市街地の緑や花が共に少ないと感じている。

ここ数年で大通りのケヤキが虫などの害にあったということもあって、樹木も伐採されているし、若者たちに話を聞く機会も多いが、駅前に木漏れ日で休めるような場所がない。

猛暑が続いている気候の中で、緑が十分に駅前にあることで、熱中症対策や暑さ対策としても機能するため緑はかなり重要になると思う。

車社会はまだまだ残っているが、福島の駅前は交流のためのハブの場所でもあると思うので、福島の顔である駅前に、花も緑も充実させる対策も必要である。

委 員

緑が少ないというのはその通りだが、アンケートの回答者数1,800人というのはどうなのか。大体50代以上の意見ということで、若者の意見を聞きたい。

委員長

大学で学生がレポートを提出してきた際に、はじめに確認すべきところである。一体母集団は何か。このアンケートをどのように捉えるかということが重要である。どのような方式で捉え、どのような対象と方法で回収されたかを事務局に答えていただく。

事務局

回答者数1,807名は、市の公式 LINE を介して、受信設定が市内かつアンケート同意者の方々を対象に質問をして、3%強の回答率で回答いただいた。このようなアンケートの類で、書面をお送りして回答をいただくケースなどもあるが、この LINE アンケートは比較的回答率が高い傾向があるため活用した。

一方で、デメリットは設問に限りがあることである。基本的な情報収集の他に約10問が限界であるので、今回も合計で13問設問した。その前段として、性別、年齢構成、居住地を選択していただいたが、回答数については、委員がおっしゃった通りどうしても年齢の高い方々が多く40歳以下の若い方々の回答数は少ないが、若い方々の意見をしっかりと反映したいと思っている。実際に分析上は年齢構成別にどのような意見があるかという部分もある程度整理をしている。

資料1の P.3 右側のグラフに該当するが、年齢構成による違いがあることはいずれの質問でも分析をしている。丸のサイズの大小は、回答数が多い年齢ほど大きな丸で表現されている。より若い方々のご意見も数多くいただきたいと思っているので、今回の計画策定は1回目としてこのようなアンケート調査を行ったが、今後計画立案以降の追跡調査についてはアンケートの調査方法なども含めて工夫していきたいと考えている。

委員

アンケートの結果について、先程の年齢構成で花の量や緑の量で言うと、20代の人たちが緑の量に満足している。若い人たちは都市化が進んでいる環境で過ごしているため、現在の状況は緑が少ないとは思っていないと考えられる。50代から70代は都市化されていない中で生活してきたので、昔の里山や緑がある中で生活していたが、段々と開発されて緑が少なくなっている傾向にあるのではないかと感じている。これに対してどのように都市計画などの計画をしていくかが重要だろうと感じた。

事務局

ご意見のとおり、20代以下については意外と満足度が高い。現在の状況が普通だと捉えている傾向が強いことと、駅前通りなどのまちなかは、学校に行く際の通過点として見ていて、街の中を歩いて過ごすという傾向が弱く、動線になっているだけにも捉えられる。そういった部分も含めて20代、30代とのギャップが生じている傾向があると捉えている。

委員長

このデータをどう読むのか疑問に思った。資料1の P.3 右上の図、年齢によって市内全体について緑の量と花の量の満足度の差はあまりない。

しかし、中心市街地の花の量や緑の量に関してしては、差がかなり多い。反応が分かれることから、年齢が若い世代は育った環境によるという意見もあったが、現在、住んでいる場所と

中心市街地を比較した違いでも評価しているようだ。

そうすると、このグラフが表しているのは、年齢が上がるほど中心部の状態に対して違和感があると捉えると、もう少し落ち着けて、ほっとできるような環境があれば馴染むという意見があるのではないか。20代以下の方は、データ数が少ないので事務局の回答も不確かではあるが、20代以下の方は、緑よりも花など中心部を彩る、賑わいのような意味合いの緑や花といったものを求めているのではないかという解釈である。回答数が限られているのでこれ以上詳しいことを言うのは難しいが、それぞれ解釈していただきたい。

委員

アンケートの中で「普通」という項目があるが、普通というのはとても難しいと思った。育った環境や住んでいる場所と比較すると思うが、その方の環境によってブレがあり、捉え方が変わってきてしまうので、厳密に言えば満足度の回答が重なりあっている部分があるかもしれない。「普通」はどのように考えたかというのは、一概にこれだけを見て判断するのは難しいという印象を持った。

委員

資料1の P.3 に市内全体よりも中心市街地の満足度が全体的に低いという表記があるが、この中心市街地で市が行っている花や緑を増やすための取組についてご説明いただきたい。

事務局

現在、市では駅前通りの街路灯にフラワーバスケットを設置している。春先から10月上旬頃まで商店街の皆様のご協力をいただきながら、花に水をやるなどし、来訪者の方々を花でおもてなしをするという取組をしている。我々の他にも商工会議所の方では、駅前の花時計を年4回設置、春先には、花ももを駅前通りの歩道に設置するなどの取組をしていただいている。

委員

このアンケートに回答した若者だけの意見では、緑の量で満足しているという状態につながるとは思わない。福島市に協力いただき、アスファルトに人工芝を広げて、実際若者たちが集えるような公園を拡張した形で、社会実験を行った。今までアスファルトだった部分が、緑が広がっているところを実際に目で見ると、やはり、ここに訪れた若者たちは、今の福島駅前には滞留できるスペースが少ないという意見が出てくる。おそらく、アンケートの設問だけを読んで答えるより、実際の風景の中で緑が増えたという確認が取れることで、より積極的な意見に繋がられるのではないかと感じる。

今後の発展性として、何かしら緑や花に関する社会実験等を行いながら、若者や市民の意見を聞く仕掛けを考えていく必要があるのではないかと感じている。

委員長

このアンケート自体、当然限界があるので、様々な機会で見聞を取り入れたいということと理解した。

委員

少ないとはいえ、せっかくお答えいただいた若者の方々は設問9や10でどういったお答えをしているのか関心がある。おそらく、家庭で花を育てたり、家庭菜園をしたりという回答になってくると思うが、本当は41の方が、どのような回答をしているのか意外とニーズを発掘できるチャンスになる。若者の本音が見えると面白い。

【議事②】

委員長

議事②緑被率について事務局より説明をお願いします。

事務局〈資料2の内容について説明〉

委員長

事務局の説明について、委員の皆様のご意見を伺いたい。

委員

福島市としては、緑の%を測るのは、緑被率のみか？

事務局

現状としては緑被率で考えている。ただ、他の自治体だと建物に対する緑を測る緑地率などがあるが、一般的に緑の基本計画の中では緑被率というのを指標としている。

しかし近年、首都圏では緑被率に水域をプラスした、みどり率という表現があるが緑被率で整理をしてみたい。

委員

様々な計算方法があるかと思うが参考までに情報提供をする。先ほどの事務局からフラワーバスケットなど、まちなかの市民が、いかに駅前の通りに緑があるかどうかを視認するかに関しては、緑被率や緑地率よりも、緑視率が良いのではないかと。

これは大阪市でも採用しており、平成25年の新・大阪市緑の基本計画において、緑視率を測定していくと示している。ちょうど昨年、これまでの成果を緑視率で上げているデータもある。緑地が増えた、うめきたの測定では、31%から44%に上がっている。

今回、市民アンケートをとって、やはり我々がこの花と緑の基本計画の策定にあたり第一に

考えるべきは、市民の目線で緑や花がどれだけ豊かなのかというのが KPI になるのではないか。可能性としてこの緑視率も検討可能ではないか。

事務局

満足度を図っていくにあたって、緑視率は一つの指標になりうる。今後どのように示していくかという部分も含めて検討してまいりたい。

現在、国の基本方針の中でも市街化区域の緑被率は30%を目指すという一つの将来目標があるが、福島市では18.4%でかなり開きがある。いかに質を上げていくか、満足度を向上させるかという点が我々としてのポイントだと考える。緑視率については、我々ももう少し勉強してまいりたい。

委員

市街化区域+信夫山の面積と、市街化調整区域の面積と表に記載があるが、信夫山は市街化調整区域に該当するが重複はしていないか。

委員長

市街化調整区域の記載には、信夫山の面積も含めて市街化調整区域の面積になっているが、信夫山と記載があるのは市街化調整区域のうちの信夫山の面積だけが入っている。

委員

そうすると市全体の面積が変わってくるのか。信夫山は二重に入っているということか。

事務局

二重には入ってない。市街化調整区域の中に信夫山は面積として含まれている。その上で、市街化区域+信夫山については、信夫山の面積だけを市街化区域にプラスして数値化した。現行計画で市街化区域+信夫山が31.3%という緑被率を示していたため、比較するために算出したものである。

委員

資料2のP.7で福島駅が緑になっているのはなぜか。

事務局

駅前広場である。ケヤキの木などがすべて反射して緑として認識される。今回の算出方法は生い茂った木々も緑被率に反映される。

委員長

先ほど、緑被率では本当の緑の効果に対して有効な指標ではないのではないか、緑視率の方が有効ではないかという意見があった。緑被率30%というのが本当に重要なのか。30%を満たさなくなった背景、緑被率が低下しているというのは理由があつてのことである。設定した当時は、農地も多くあつた。それが時代とともに市街化してきたために緑被率が低下している。これはむしろコンパクトシティから考えれば、非常に良いことである。これを再び30%を目指すというのは違和感がある。本当に30%が有効なのかという議論はある。その上でやはり、公園面積はあつた方が良いという意見もあるが、今さら市街化区域内に公園緑地を確保するのは、財政的にも、どの市町村でも難しい。それを福島市でも考えていかななくてはならない。

ただし、数値をどう読むかというのはまだ問題がある。個々の家にしても、ますますコンクリート化が進み、距離をあけずに建てる新しい家の作り方になっている。その結果、住宅地も緑被率が低下している。昔は、ケヤキの木などの街路樹の樹幹が大きかった。そうすると上から見たら緑が見える。ところが今はやせ細って、電柱のような街路樹になっている。これでは上から見ても緑被率には寄与しない。緑の在り方も変化している。ただ一方で、水面や山、耕作放棄地、空き家は逆に増えていく可能性がある。こうした緑は本当に役に立っているのか。有効な緑とするにはどうしたら良いか、皆さんのご自宅のお近くの緑も有効な緑になっているかご確認いただきたい。

委員

緑被率30%とは何をとっているのか。アンケートにも紐づくが、満足度で言うと、この松川、阿武隈川、荒川等の河川敷の雑草があるかないかで満足度を示すのか。信夫山は山なので、自分たちが住んでいる場所の緑が感じられないという印象につながるのか。かといって、この川沿いの緑や信夫山を除外すると30%を下回る。どの指標を取って満足度を高めるのかを考えなくてはならない。

委員

緑被率や緑についての議論が行われているかと思うが、今回の策定委員会としては、花と緑の基本計画という、花も加わった点が特徴的だと思う。その上で、緑に関して言えば緑被率、ないし私が提案したのは緑視率だが、花がこれから年数をかけて充実していくというのは、何を指標に測定・検証していくのか何かお考えがあるか。

事務局

非常に指標として難しいと捉えている。目標値の設定のあり方として、花については、今回アンケートで我々も改めて認識を深めたが、満足度をどのように向上させていくか、指標としては、今回の満足度を基準値としながら、現状以上の満足度に向上させていくという取組を想定する。定期的にアンケートで意見をいただきながら満足度の向上が図られているかどうか

を、一つの指標としてはまず考えてみたい。

その他、こういった指標のあり方が良いか、模索中であるためご意見をいただきながら目標値として設定のあり方もご教示いただけると非常にありがたい。

委員

緑被率の場合どうしても航空写真等での確認であるため、花は季節によって空からはわからない可能性が高い。一方で、アイレベルで写真を撮ったところにどれだけ緑が入っているのかというのが緑視率の算出方法である。春夏頃であれば、測定すべき場所、花を充実させようという通りに関しては、アイレベルの写真に対して花がどれだけ充実しているのか「花視率」のような数値化も可能ではないか。花は小さいものだからこそ、その目線で評価できる可能性もあると思う。

委員長

指標の話が出たが、30%という数字自体を目標とすることも問題があらうかと思う。しかし、緑被率、緑視率の数値を上げることが行政の目的ではない。有効な緑、有効な花、有効な人間と環境との関係を構築することが本来の目的であって、それがまちづくりにつながる。市民の皆様が元気になる、コミュニティが育まれるといったことが重要である。あくまでも指標は指標であり、必ずしもそういった指標で測れないものも無視してはいけない。次回に向けて幅広くお考えいただいた方が良くと思う。

委員

緑被率で考えると、信夫山である程度緑が担保されている状況である。市民が何かやろうと思っても、さほど数字として見えてこない。それよりは、人の生活の中で緑がどう生かされているか。道端の雑草がマイナス評価になっている可能性もあるため、そのあたりをおそらく丁寧に項目として挙げておく必要はある。

花については、おそらく活動していることやお花がどれだけ売れているかも指標に入れていくのはどうか。経済的な話にもなるが、コミュニティの活動等も新たに福島から発信していくような指標が出てくると良い。

委員

ただ緑があれば良いということではないと改めて実感した。耕作放棄地や川の雑草などではなく、人々の暮らしと調和したような緑、花が重要で、緑が多いことだけが満足につながるということではないと感じた。

委員

市内の信夫山は非常に大きなスポットであり、我々の団体も信夫山を活用した事業を年に2回程度行っている。上から見た写真であれば非常に緑豊かな信夫山であるが、山の中も走っ

たり歩いたりする中で気になるのは、遠くで見る景色、上から見た景色、下を見たときの景色はまた違った価値が出てくるということである。特に伐採・抜根など、市民の満足度を上げるためにはやはり整備・改良が必要だと思う。山は非常に面積が広くて難しいが、道路が通っている箇所を中心にやっただけでも変わってくると思う。ウッドチップが入って展望台も非常に綺麗になっているので、改良がより進んでいければと思う。

委員長

自然だから放っておけば良いという問題ではないということである。実際にうまく活用できる環境にする、そのために何をすれば良いのか課題がある。

では、次の議題にうつりたいと思う。

事務局

次の議題にうつる前に、先程、市民アンケート調査の結果で、若い世代が現在おこなっている、または、やってみたい花と緑の取組みについて興味があるというご意見を頂戴したため、紹介したい。1番多い回答が「特にない」で、次に「自宅で花や緑を育てる」という回答が多かった。

【議事③】

委員長

議事③福島市花と緑の基本計画骨子(案)について事務局より説明をお願いする。

事務局〈資料3の内容について説明〉

委員長

これまでなされてきた施策の議論は非常に多岐にわたっている。あまりそれにこだわらずに、福島市の生活の中で、皆さまがどのようなことをお考えになっているのか、お話いただければと思う。

委員

市全体というよりも、中心市街地に関して考えてみた。勝手なアイデアであるが、「花と緑の基本計画」をどう達成するのか、将来像をどう表現するのかと考えていたときに、とても壮大なテーマで難しいと感じた。まちなかにプランターを並べる程度では、どのまちもやっている。

そこで、例えば4月から6月の間、県庁通りなどを花で圧倒的な飾り付けをする取組などが考えられる。全国的にもあまり事例がないので、外部評価を受けられるのではないか。質か量かという議論については、福島市の場合は緑の量はかなりあると思うので、質を高めていっ

の方が良いだろう。

まちなかで言うと、花見山から中心市街地に誘客しようとしているが、なかなかうまくいっていない。山とまちで2拠点化できると、まちにも人が流れてくるのではないか。市の取組として誇れるものがあると満足度にもつながるのではないかと思う。

委員

個人的に花はとても難しいと思っている。季節柄、短期間でしか満開にならず、その後のケアも大切でかつ費用がかかる。今年度、福島青年会議所で信夫山の斜面に芝桜を植樹した。それもやはり1000株でかなりの金額がかかった。そのため、行政だけで取り組むのは非効率だと感じた。花の事業例として出ていたのが、民間事業者による取組だったが、花に関しては一般の方を巻き込んだ方が良いと思う。

個人的な話だが、母は昔、家の庭で花を植えていたが、仕事が忙しく手が回らないために諦めていた。退職して時間ができてから、花を頑張って育てている。このように時間に余裕ができた方、趣味に悩んでいる方を巻き込んで、バスケットは市で用意して、そこに植える花は自分たちで用意して、専門の先生も呼んでセミナーを行うなど、自分の趣味として福島のまちを彩るような人が自発的に増えてもらえれば、予算的にも、参加者としても面白いのではないかと思う。

基本方針3に「次につなぐ」とあるので、親が取り組んでいるところを見た次の世代が、またそれを自分もやってみようと思う人が増えるのではないか。そういった取組をご検討されてはいかがかと思う。

委員

商工会議所の女性部では、駅前の花時計やあづま総合運動公園内の体育館の脇の花の鉢植え等に取り組んでいる。

信夫山の裏に住んでいるが、新築住宅ができてもしっかりゆとりがないという印象がある。玄関に1つでも花あれば良いのと思うが全くない。あつたとしても枯らしてしまう状況を見ている。自分で持っている駐車場の両脇には、50mほど花を植えている。花の鉢も200程度あるため、本当はチャレンジガーデンに出したいが参加できないでいる。

やはり育てるということが良い。親が育てている様子を見ていれば良い。そうでないと、子供もやはり花を育てられないまま枯らしていつてしまう。これではその後が続かないと感じている。

委員長

ゆとりがあるかないかという視点がある。何かいい方法がないものか。

委員

最近は、車を2台から3台持っているため、家に庭を作るといことが本当に贅沢で時間も必要である。それにしても、一鉢でも二鉢でも、玄関前にお花を飾れば品格も出てくるように感じる。必ずしも立派なものでなくて良いと思う。

委員

私は、なるべく経費をかけずにできたら一番良いと感じる。行政が対応する部分はあると思うが、一般の方との協力が無いとやはりやっていけない。最近空き家が増えてきて、手入れがされておらず雑草が多い。地域でやっていかないと気持ちよく過ごせないと感じている。

個人的には、花を育てているので分かるが、やはり育てるのは大変である。最近暑い日が続いていて、今年はプランターで作るグリーンカーテンは諦めた。水やりなどの管理が大変で、直で植えれば違うが、プランターで育てるのは近年の気象条件では厳しい。種から育てるのはやはり大変なので、苗を買ってくる。苗は様々な苗があるので買う楽しみ、植える楽しみになる。こうした彩りが生活に入ってくると良い。

委員長

確かに、今年のような大変な環境の中で、これから花、緑をどう育てていくのかというのは、また新しい課題かもしれない。

委員

福岡市の取組の「パートナー花壇」を紹介したい。パートナー花壇は、ボランティア団体や市民の方が花を植えたり管理したりする取組で、非常に良いと感じた。花を植えたいが花壇がない人や、管理はできないが花を植えたいという人もいると思うので、この福岡市の取組は福島市にも応用できるのではないかと。そこにプラスして、市が肥料や花を買うときに助成したり、取り付けをしたりという取組も良いのではないかと考えた。

委員

花や緑を自分たちで育てたという認識や思い入れがあると、花や緑に対する思いも変わっていくだろうと感じた。特にアンケート結果の「現在行っている、今後行ってみたい取組」の中でも、自分で花や緑を育てるほか、家庭菜園をやりたいという方がいらっしゃる。花や緑を育てることに対して、前向きでやってみたいという印象を持たれている方が多くいらっしゃる実感した。土地がない、庭がない、コンクリートだからできないということではなく、その区域や市内で共有しながら実際に育てることができるスペースがあることで、緑に対する思いもより広まるのではないかと。家庭菜園や自宅での取組も広がって、市内全体に広まることできたら良いと思う。

福島県玉川村で行われている「花いっぱい運動」という活動をご紹介したい。こちらでは

道路の沿線住民など村全域で展開している運動である。自身の育てた花だと思い入れが感じられる運動だと思い、花に対する愛着を感じられた事例として紹介した。

委員長

地域のコミュニティの中で、どう響きあっていくのか、花や緑との関わりの深さという観点から参考事例を挙げて頂いた。

委員

緑の基本方針に関して、個別目標で環境負荷が小さいカーボンニュートラル都市が掲げられているが、カーボンニュートラルと考えると、航空写真で見たときに緑がないところや耕作放棄地、山での太陽光発電とのバランスを考慮した魅力化は考えなくてはいけないのではないかな。

小中学校 PTA 連合会という立場であるため、学校の中での取組を考えた。緑被率は思いのほか校庭の周りに緑はあるが、実際のマップで見ると、はっきりとした緑化がされてない。また、学校の用務員が、落葉樹だと片づけが大変で、校長自らが伐採して管理しているほど大変だとうかがった。こうした状況の中で、子どもたちがどのように取り組むのかと考えると、皆様もおそらく低学年のころにアサガオを育てたことがあったと思うが、児童・生徒の委員会活動として、学校環境を整えるという視点で花を植えて育てるというのを率先して取り組むような仕組みを団体から発信できるかと思う。

また、若い世代からすると、映える、写真に撮ってみたいと思ってもらえる飾りをまちなかでスポット的にできれば良い。ここで写真を撮るととても綺麗だと思わせる取組があると、自然発生的に広がりが出てくるのではないかな。こうした取組を通じて、市でもSNSを使って発信することが非常に有効だと思う。

委員

自分自身も最近自宅で観葉植物を買った。今までは植えてみても枯れてしまう、水をあげ忘れてしまうことが続いていたが、実際に委員の皆様とお話をするにあたり、愛着を持つということが非常に大切なことではないかと思うようになった。少し早起きをして、自分の大切にしている緑をよく観察してみるなど、緑を通して自分の時間を確保することが一つの癒し、自分の生活の中のゆとりにつながると最近感じるようになった。

それをふまえて骨子案の3本の柱を見たときに、吾妻連峰と花見山の写真、次世代につながる教育の写真はあるが、基本方針2だけイメージ写真になっているため、ここがまだ福島市が目指せていない、たどり着けていない部分なのではないかと感じている。

緑を自分たちで作る、快適に暮らすための緑や花を用意するところが今後非常に重要になってくるだろう。まずは、福島市の行政から動いて、徐々に市民が自分でもやってみようという広がり、さらに市街地を歩いていて、こうした緑があるのだと心の成長につながる活動に広がる

ことで、本当の意味での花と緑の基本計画の神髄が見えてくるのではないか。

福島まちづくりセンターは駅前のAOZも運営している。月におよそ40本近くの講座やイベントを実施しており、年間で来館者数54万人近くの方がいらっしゃる。例えば、たまたま来訪していただいた方に緑と花を感じていただけるような展示や、リタリしたシニアの方に対して協力を仰ぎたい場面で、講座やイベントは力添えできる場面があるのではないかと思うので、相談して頂ければと思う。

委員

花と緑とまちなかの共存は難しいと思っていた。例えば、高い街路樹をまちなかに作ると、ムクドリがきってしまうなど様々な問題が発生すると思う。他県の事例では、鹿児島市の路面電車の線路は、レール以外の部分が芝などの緑で覆われている。このように、例えば道路を舗装する際にタイヤが登らないであろう部分は芝にするなど、駅前通りなどはやりやすいのではないかと感じた。

こうして緑を増やしていくほか、駐車場を作る場合でも、車の部分はやむを得ないがタイヤが登らない部分は芝にしてしまうなどの取組も考えられる。これは内水氾濫の対策にもなり、高い木だけの緑ではなく、芝を増やしていく方法も良いと感じた。

P.14の「民有地における緑化推進」について、「屋上・壁面緑化等推進の検討」とあるが、これは何十年と言われ続けてきて全く進んでいない。今の建物では、屋上はどうしても太陽光のデザインとなってしまうので、この屋上・壁面の緑化を民間に求めるのはどうかと思った。

委員

アンケート結果を見ていると、維持管理はやはりネックになってくる。行政だけではなく、市民にも協力を仰ぎ、市民の意識自体を変えていくことで福島市全体の緑化、そして花も豊富にある状態を作ることができると感じた。

最後のこの資料の中で言うと、チャレンジガーデンマップは素晴らしい取組だと感じた。実際にこれに登録されている方、とてもアクティブな意識を持たれた市民の方だと思う。ご自身のお庭だけではなくて、花や緑が少ないと言われている駅前などにも参画してもらえるような仕組みづくりができれば良い。すごく良い取組だと思いながら、より良くできるのではないかと考えた。実際のウェブサイトを見れば、登録されている個人宅のお名前とご自宅の電話番号等が掲載されている。コンプライアンスやセキュリティの側面で問題はないのかという心配もある。逆に直接お電話して問い合わせで見に行くというよりは、もう少し行政でネットワーク化やコミュニティ化、管理を協力していくと、よりチャレンジガーデンマップが魅力的なものになっていくのではないか。

遠方の個人宅のお庭にお花を見に行くとなると、どうしても車移動で通過するだけになってしまう可能性がある。ただ緑が増えれば良い、花が増えれば良いということではなく、そこに滞留できる仕掛けを設けられるかどうかが重要である。人数×滞留時間×緑被率というような

計算方法が、おそらく価値ある緑や花になってくると感じた。チャレンジガーデンに登録されている方やガーデンチェアをされている方、ベンチを置いてくれている方もいるが、そのあたりを少し工夫していくと、このチャレンジガーデンマップはより人々が福島市内を巡って様々な花や緑を感じ取れる仕掛けになるのではないかと。

委員

自治体だけが旗振り役を担うということではない。花と緑の関係性をどうすれば訴えられるのか。素敵なストーリーがこの計画に盛り込まれるか。おそらく小布施でもオープンガーデンという形でなされていて、松本とかもそうですけど、オープンガーデンを見てほしいという形での紹介である。個人を前面に出さずに情報発信の仕方を変えていくと良いのではないかと。また、自分の家はできないがこうした活動に参加したいという方々のためには、コミュニティガーデンという手法もある。地縁は関係ない形でのコミュニティが生まれる手法であり、アンケートでも20代の方でも花を植えたいと希望があるのであれば、世代を超えて関係性を持つという可能性も高い。土地が空いているところでどう活用するか。コミュニティガーデンにするなどいろいろな手法があるので、グリーンインフラも含めて、ただ花を植えれば良いというだけではない何か新しいガーデンの手法を盛り込んでいながら、福島らしい花と緑という姿が出てくると非常に良い。

福島の復興で大変な状況の中でも、やはり戻ってきた方は、まず花を植える。自分たちが戻ってきて生活が始まったことを伝えたいというのもあり、花が植わっていると人が戻ってきたのだと感じられ、またそこに潤いを感じられる。浜通りを訪ねると、花を植えるのは非常に重要なことだとよく思う。上からみる緑だけではない、人の目線での花と緑をぜひ大事にしたい。

委員長

量を増やして取り組もうという時代は終わったと感じている。市街化も限界まで達していて、人口も減少している。その中でむしろ重要なのは質的な問題である。いかに有効に、我々の文化あるいは気持ち、精神、まちづくりに、どうやって貢献しているのかということをお聞きしたい方が多い。

そういう観点で振り返ってみると、響き合うことが大事だと思う。ただ単に緑を植えた、増やしたということではなく、例えばこのような素敵な庭ができたということや、ビオトープネットワークでこの季節ならこのような動物が来た、この花が咲いている、この散歩道でこのようなものがあつたなど、それらを響き合わせて季節を実感する、そういったネットコミュニティが育つことの方が重要だろう。四季折々の情報が響き合うということも大事である。

また、今日の資料で出ていない情報が1つある。この市民アンケートの自由記述欄が実は大事なところだと思う。それを見ると、管理できていないのではないかと、落ち葉はどうするかといった意見が多く見受けられる。これは福島市に限ったことではない。どこの自治体でも

公園は作らなくて良いという意見もあるので、緑被率30%の目標にとらわれず実態を見ていく必要がある。

最近では落枝などによる災害のリスクも事前に評価して管理していかなければならない段階にも入ってきている。管理の質をグレードアップしていかなければいけない。そういった観点でも、量を増やすよりきちんと手入れをするにはどうしたら良いのか、市民の協力ももちろん必要だが、きっと根本的なところから考え直さなくてはいけない。ただし、私が不思議に思っているのは、街路樹の足元に花が植わっていたり、コキアが植わっていたり、街路樹それぞれで風景が変わっていることである。非常に面白い現象だと思う。そういった潜在的な動きもあるため、何か生かしていけると良い。

さらに、花に関しても量の問題ではない。いかに効果的な花の植え方、花の飾り方をするか。これは商店街それぞれやお店、個人宅でも良いが、やはりデザインするという感覚が必要である。花と周辺環境、花と建物、花と庭など、花をどういった場所に、どういった形で、どのように見せるのかというトータルなデザインが必要で、むしろそれを競って、中心市街地に行けば面白い通りがある、様々な工夫がなされているなどテーマがあっても良いだろう。より有効に生かしていければと思う。

また、公園の概念を変えられるのであれば、福島市の中にも少し手を加えると面白いスポットになる、面白い街角になると思えるような、ゆとりがある公共施設、ゆとりがある道路幅、ゆとりがある場所が何箇所か存在する。そこにうまく手を入れて、少し休める場所ができると良い。そういったところを核にして、まちづくりの試みが起きる種をまくことも重要ではないか。中心部ではあっても、公園制度をうまく活用すれば、様々な公共施設を整備、公園もできるというようなこともお話があった。さらに工夫の余地があると感じる。

次回は政策的な議論に向けて、本日のご意見をふまえて事務局でさらに検討を進めていただけたらと思う。本日の議事内容については、以上とする。

(4) 今後のスケジュールについて

事務局

第3回策定検討委員会を11月13日(木)午後1時30分から開催する予定である。委員の方々には、事前に資料をお送りさせていただくのでよろしくをお願いしたい。

(5) 閉会